

- 1601: 棒状ぼうじょうのツイータを開発かいはつしようとしたが、失敗しつぱいしました。
- 1602: 草冠くさかんむりの漢字かんじを、助手じょしゅのビシュケクに列挙れっきょさせました。
- 1603: それ硫酸りゅうさんだから、デヨン様に触さわらせちゃダメでしょ？
- 1604: ふむ、プラスコーヴィヤを潰つぶすとは、穏おだやかじゃないですな。
- 1605: ニヨキニヨキと生はえる雑草ざっそうに怒いかるメツアンジェが、除草剤じょそうざいを撒まきました。
- 1606: 鍵かぎは開けてますので、ピユイゼギユール様と話はなしをするなら今いまです。
- 1607: シエンミエンとツエペリは、ジェット機きでニューヨークに進軍しんぐんしました。
- 1608: フォーゲルヴァイテは、著書ちよしよの粗筋あらすじをまとめることに苦労くろうしてます。
- 1609: キンダーツエツヒエは、子供こどもへの愛あいがある祭りまつですね。
- 1610: バーデイの数かずでペルッティを超えるこのは、無理むりじゃと思おもうがの。
- 1611: ギユリヴェールに勝かつつもりなら、ツエグヴェリを訪おとずれてみなされ。
- 1612: ピアツツアは母国ぼこくに失望しつぽうし、他国たこくへ帰化きかすることを決きめました。
- 1613: ダミヤノヴォは、喉のどに腫瘍しゅようが見つかり悩なやんでいます。
- 1614: このひよつとこは、バルニャーニの指示しじで作つくったものです。
- 1615: デュプレには特殊能力とくしゅのうりよくがあり、なんでも透すけて見みえるそうです。
- 1616: 妙齡みょうれいのパティシエールが、虚々実々の駆け引きで快挙かいきよを遂とげました。
- 1617: チュルゴが寝苦ねぐるしかったのは、籠枕かごまくらが合わなかったからです。
- 1618: 私わたしの兄あには、クオデネンツを探さがし求もとめ、早死はやじにしちゃったのです。
- 1619: ポロヴェーツイケでは、風車かざぐるまを作る遊あそびが流行はやってるそうです。
- 1620: 浴室よくしつにカビが生はえたので、先程さきほどからカミュが除じょきよ去そしてます。

- 1621: ツオンカパは、列挙れっきやされた教材きやうざいから、科挙かきよに関するものを選ぶえらべでしょう。
- 1622: 「きえー」と叫さけびベッドでピョンピョンしていたら、母親ははおやに叱しかられました。
- 1623: シャオミャオと鳴ないてるのは、じゃれて花瓶かびんを割わったから？
- 1624: ポリネシアの使者ししやから、祝福しゆくふくの御言葉おことばを賜たまわりましたよ。
- 1625: ズギエシに居住きよじゆうの妊婦にんぶが、助けを求めたすてきました。
- 1626: 度忘れどわすしたけど、ヘカトンピュロスにゾフィーの手紙てがみがあるはずです。
- 1627: ヴアレんティヌスは意中いちゆうの人を失ひとい、首位しゆいからも脱落だつらくしました。
- 1628: ジェムチュージニコフの巨額きやがくな借金しゃっきんは、宝くじたからが当たり返あせました。
- 1629: ニエメツのお歳暮せいぼは、ヴェネツィアで作つくられたジャムでした。
- 1630: アンニユイと言いうが変人へんじんなだけなので、ぼちぼち愛想あいそを尽つかすね。
- 1631: 何なにやらゲジェゴシが、パヴエウとピーチジュースを作つくってます。
- 1632: チエレスティーナが糾弾きゆうだんされたが、ビュルがフォローし事無ことなきを得えました。
- 1633: 疑うたがわしきジャツジでウイジャヤさんを欠かくのは、かなりの痛手いたでですな。
- 1634: 九このつの時ときに、飄々ひようひようとしているデェムシュと知り合しあいました。
- 1635: ギャヴァとギェナーは犬猿けんえんの仲なかで、仲裁ちゆうさいできそうもありません。
- 1636: 略歴りやくれきに触ふれることなく虚名きよめいもばれずに、虚業きよぎようを始めはじめます。
- 1637: 寄席よせに行くいけど、折角せつかくだからグアニーとイビュコスも行いきましよ。
- 1638: リュギヨンスが、難むずかしいミュージカルの脚本きやくほんに戸惑とまどっています。
- 1639: ジャヴァヒシヴィリは、貧まずしい街まちで育そだち、ハングリー精神せいしんに満みちてます。
- 1640: ビールとレモネードを均きんいつ一ひりつな比率まで混ぜ、パナシエを作つくりましよ。
- 1641: ポニャトスキーの怒号どごうが轟とどろきましたが、ひよつとして非常事態ひじょうじたい？

- 1642: ヒュドラを滅ぼす武具の開発には、瑠璃とヒュパティアが必要じゃ。ほろ ぶぐ かいはつ るり ひつよう
- 1643: イエナーキイエヴェでのディナーで、キューブカップの冷たいジェラートが美味でした。つめ びみ
- 1644: えっと、茶柱が立った日の出来事を、ボスのシャンティに口述しました。ちゃばしら た ひ できごと こうじゅつ
- 1645: 幼弱な若君のラングミユアですが、キレるとヤバイですよ。ようじやく わかぎみ
- 1646: トウヴェイエとジャーヴィスの決闘、どっちが勝つか賭けましょか。けつとう か か
- 1647: チグウは、絶えることなく念仏を唱えるよう、指示されました。た ねんぶつ とな しじ
- 1648: 屋形船でウェツエルがプロポーズして、断られたらしいわ。やかたぶね ことわ
- 1649: 中止は 潔いけど、やっぱバーニョ旅行はやりたいな。ちゅうし いさぎよ りようこう
- 1650: 究 極のシエフによる鹿肉のファルフアツレが、百均にあります。きゅうきよく しかにく ひやつきん
- 1651: カルヴァーリヨが、奈落の底の地獄絵図を展示するんですってね。ならく そこ じごくえず てんじ
- 1652: 喉が渴くと、ヘーフェヴァイツェンでもグイッとやりたくなるね。のど かわ
- 1653: ヌツツオは指の静脈が傷つき、指紋認証できなくなりました。ゆび じようみやく きず しもんになしよう
- 1654: プレクムリエから、厳封された何かが届いています。げんぷう なに とど
- 1655: スイートポテトが、難局を乗り切るには不可欠です。なんきよく の き ふかけつ
- 1656: エリュシオンの封印が解け、テュポーンの肉体は消滅しました。ふういん と にくたい しょうめつ
- 1657: 緑黄色野菜をガッツリ食べれば、無病息災ですよ。りよくおうしよくやさい た むびようそくさい
- 1658: ゲズイーラのオペラハウスで、パラパラでも踊りましょ。おど
- 1659: ビエンカの笑顔は、タンポポの如く周りを和やかにします。えがお ごと まわ なご
- 1660: 虚実織り交ぜた説得により、街を写す許可を得ました。きよじつ お ま せつとく まち うつ きよか え
- 1661: ウオロジミールの知略を拒絶し退けるとは、無鉄砲すぎますよ。ちりやく きよぜつ しりぞ むてつぽう
- 1662: 互助義務があるため、貯金をユヴァスキュラの母に送ります。ごじよぎむ ちよきん はは おく

- 1663: パイナップルが桑果そうかうつてことは、授業じゅぎょうでやりましたよ。
- 1664: 教会きょうかいで祈いのるクアルティーナに、綿菓子わたがしを送おくります。
- 1665: ゴキブリが殖ふえたので、アロマのデイフューザーで駆除くじょするのじゃ。
- 1666: 暖色だんしよくだと、スピエホヴィッチは、シャルトルーズイエロー推おしですね。
- 1667: クウは様々な人さまざまに使ひとわれ、人違いひとちがで危あやうい目めにあいました。
- 1668: プリミティーヴォは、奇妙きみょうな性質せいしつを有ゆうする酵母こうぼを発見はっけんしました。
- 1669: 奴やつなら、クエベックには堀ほりがないなどと、ペラペラ喋しゃべってますが。
- 1670: 亡き妻なを恋つまうピヤニツチに、哀愁あいしゅうが漂ただよって見えみます。
- 1671: 月末げつまつのゴルフなら、キャディにチュイコフも誘さそいません？
- 1672: デイヴィニャーノでは、先程さきほどからテレビの受像じゅぞうがゆがんですね。
- 1673: 在学期間ざいがきかんに、朱泥急須しゅでいきゆうすを近距離きんきよりからみたいものです。
- 1674: 明後日みょうごにちは七月十六日しちがつじゅうろくにちで、虹にじの日ひと言いわれています。
- 1675: グオーフェイさん、チェロの弦げんの張力ちやうりよくが、緩ゆるんですよ。
- 1676: ピエルパオロが来くるとの予測よそくが外はずれ、シャペルはがっかりしました。
- 1677: 悪足掻わるあがきしても、グエアさんに劣おとる事実じじつは覆くつがえりませぬ。
- 1678: ラギュスのゾンビ好きずって、親戚しんせきも御存知ごぞんじでしょうね。
- 1679: ピョちゃんが、濁流だくりゅうを模擬もぎするバーチャルリアリティアプリを出だしました。
- 1680: 僕はぼく、リヒャルデイスに唆そされただけの弱者じゃくしゃですよ。
- 1681: シェルンには、デュボワの肖像画しょうぞうがが、今いまも祀まつられています。
- 1682: 奇抜きばつな修行しゆぎようで衰弱すいじやくし、病やまいで脚あしも虚劳きやうろうしてきました。
- 1683: ピッツォツケリを藐視びようしすることは、直ただちにやめましょう。

- 1684: 部下<sup>ぶか</sup>のフアーデイが、ドラキュラに襲<sup>おそ</sup>われたと嘯<sup>うそぶ</sup>いておる。
- 1685: イエンの知識<sup>ちしき</sup>は素晴<sup>すば</sup>らしいが、ヴシユコヴィツチ程<sup>ほど</sup>ではありません。
- 1686: 重<sup>じゅうこう</sup>厚<sup>こう</sup>な出来栄<sup>できば</sup>えの魚眼<sup>ぎょがん</sup>レンズが、不慮<sup>ふりよ</sup>の事故<sup>じこ</sup>で破損<sup>はそん</sup>しました。
- 1687: ちよいと尋<sup>たず</sup>ねますが、テヤっちゃんってご存<sup>ぞん</sup>じですか？
- 1688: 馬鈴薯<sup>ばれいしょ</sup>の反収<sup>たんしゅう</sup>は悪<sup>わる</sup>くないと、ピムは力説<sup>りきせつ</sup>しました。
- 1689: 花火<sup>はなび</sup>も無事<sup>ぶじ</sup>に揚<sup>あ</sup>がったので、そろそろ黒<sup>くく</sup>白<sup>びやく</sup>をつけましょう。
- 1690: ギュリユムは小豆<sup>あずき</sup>を洗<sup>あら</sup>い、フェリーでフェスティバルに向<sup>む</sup>かいました。
- 1691: 身持<sup>みも</sup>ちが修<sup>おさ</sup>まり、テヨーと叫<sup>さけ</sup>ぶ癖<sup>くせ</sup>も改<sup>あらた</sup>めました。
- 1692: キューデイツペーは、ファンシイな踊<sup>おど</sup>りが実<sup>じつ</sup>に上手<sup>じょうず</sup>です。
- 1693: グザヴィエさん、蛍光塗料<sup>けいこうとりよう</sup>ばかりでは、ピカピカ過<sup>す</sup>ぎて目<sup>め</sup>に毒<sup>どく</sup>ですわ。
- 1694: エクイテスは博<sup>はく</sup>学<sup>がく</sup>そうで、実<sup>じつ</sup>は即座<sup>そくざ</sup>にウイキペディアを見<sup>み</sup>てます。
- 1695: ヌサドウアで買<sup>か</sup>ったシェリー酒<sup>しゅ</sup>が、酸<sup>す</sup>いくなっていました。
- 1696: セーケシユフェールヴァールには、旅愁<sup>りよしゅう</sup>らしい侘<sup>わ</sup>びがありますね。
- 1697: ピュエシユが退<sup>たい</sup>却<sup>きやく</sup>し、武力<sup>ぶりよく</sup>のバ<sup>く</sup>ランスが崩<sup>くず</sup>れてますね。
- 1698: 率直<sup>そつちよく</sup>に、貴女<sup>あなた</sup>とフィッシャーの仲<sup>なか</sup>に、ヒビが入<sup>はい</sup>ることを憂慮<sup>ゆうりよ</sup>してます。
- 1699: デャーナを糧<sup>かて</sup>に、フィリップは大<sup>おお</sup>いなる成<sup>せい</sup>長<sup>ちよう</sup>を遂<sup>と</sup>げます。
- 1700: 要略<sup>ようりやく</sup>すると、不格好<sup>ぶかつこう</sup>でドタドタ歩<sup>ある</sup>き怪<sup>あや</sup>しいが、無実<sup>むじつ</sup>ってことか。
- 1701: ーんと、今日<sup>きょう</sup>は白<sup>びやく</sup>夜<sup>や</sup>だから、日没<sup>にちぼつ</sup>はありませんね。
- 1702: バシユード諸島<sup>しよとう</sup>と比較<sup>ひかく</sup>して、ティコピア島の住<sup>どう</sup>み心<sup>す</sup>地<sup>ご</sup>は良<sup>よ</sup>さげかな？
- 1703: 百<sup>ひやく</sup>デイナールで厳罰<sup>げんばつ</sup>を免<sup>まぬ</sup>げるなら、チャツチャと払<sup>はら</sup>っちゃうぜ。
- 1704: 旦那<sup>だんな</sup>がシエミヤーカーと結託<sup>けつたく</sup>し、ヴォジャを村八分<sup>むらはちぶ</sup>にしたそうだ。

- 1705: レーダーに魚群が写り、ミケイジーがキャーキャー喜ぶ。  
ぎょぐん うつ よろこ
- 1706: 恐らくニューニエスの努力は実らず、決裂するだろうな。  
おそ どりよく みの けつれつ
- 1707: 彼女は才媛だと持て囃されるが、虚像である。  
かのじよ さいえん も はや きょぞう
- 1708: デイデーとヴィクトールは、三時になると高い紅茶を飲む。  
さんじ たか こうちや の
- 1709: ビュシエールⅡポワトヴィーヌなら、ガイドブックは必携だぜ。  
ひつけい
- 1710: ヴオエヴォーダの素晴らしき演奏は、心を仏のように静める。  
すば えんそう ところ ほとけ しず
- 1711: ベレゾフスキーは、北寄貝と干瓢巻をバクバク食べる。  
ほつきがい かんびようまき た
- 1712: ヘートヴィヒ様は都落ちし、ポンピドゥーと過ごすことになった。  
さま みやこお す
- 1713: 叔母が、トリヨフルチェヴォイ島への移住を希望し、却下されてた。  
おば とう いじゅう きぼう きやつか
- 1714: ゾロリは、眠いがチャプチェを調理し、パーハムに送った。  
ねむ ちょうり おく
- 1715: 短冊に、エトウープのバッグが欲しいと書いて飾った。  
たんざく ほ か かざ
- 1716: 初版の売り上げは芳しかったが、絶版になりぬか喜びだ。  
しょはん う あ かんば ぜっぱん よろこ
- 1717: あのとき、玄妙五種香を入手し損ねたことを、悔いている。  
げんみようごしゅかう にゅうしゆ そこ く
- 1718: 掲示によると、チューベローズが明日へりで届くようだ。  
けいじ あす とど
- 1719: デヤーと掛け声を発し、ヴィジャヤは雄弁にビジョンを述べる。  
か ぐえ はつ ゆうべん の
- 1720: トリュフォが奢ったホタテカルパッチョは、ヘディに希望を与えた。  
おご きぼう あた
- 1721: ゼクシイによると、雨合羽でデートするのがナウいそうじゃ。  
あまがつば あまがつば
- 1722: ヒップホップパーティーで負債を抱えたが、緩やかにファンが増えている。  
ふさい かか ゆる ふ
- 1723: ヴェルホヴィーネツイの客船が座礁し、まだ残骸が浮流してる。  
きやくせん ざしよう ざんがい ふりゅう
- 1724: ギエンツェンへのメッセージが、名寄市や和寒町から届いた。  
なよろし わっさむちよう とど
- 1725: 私は、細身のシェザナとペアになって、パヴァーヌを踊る。  
わたし ほそみ おど

- 1726: ゼウスの仮説を検証するため、病人以外はヴヴェイに向かう。  
かせつ けんしょう びょうにんいがい む
- 1727: キヤバイエ君、砒素は猛毒だから、絶対に触れちゃダメだぞ。  
くん ひそ もうどく ぜったい ふ
- 1728: ヴイジャヌエバは、蠱惑的な言葉で惑わすから、会うなら気をつけなよ。  
こわくてき ことば まじ あ き
- 1729: ひよつとしてギデイーニは、仁王立ちとジョジョ立ちを区別できないのか？  
ひよつと せいちょう と におうだ だ くべつ
- 1730: 著 しい成長を遂げたティナは、余力がありヨーロッパへ旅立つ。  
いちじる せいちょう と よりよく たびだ
- 1731: ギョキツツアの優れた洞察力は、虚言癖の嘘でも見抜けるそうだ。  
すぐ どうさつりよく きよげん へき うそ みぬ
- 1732: 水害から守るための堤に、パパラッチが謝意を示す。  
すいがい まも つつみ しゃい しめ
- 1733: 軍曹は傷を縫うや否や、「ぬん」と飛龍の牙を投げつけたのじゃ。  
ぐんそう きず ぬ いな ひりゅう きば な
- 1734: 御母堂の傍らに立つのは、領主のドラピエルだろう。  
ごぼどう かたわ た りようしゅ
- 1735: 面砲が心配なクスネツオワは、皮膚科を予約した。  
にきび しんぱい ひふか ややく
- 1736: ツオーが演説で、「チャ」を「テャ」と発音したことで、疑惑は拭払された。  
えんぜつ せんぜつ はつおん ぎわく しよくふつ
- 1737: 旬のエシヤロットや春菊が具材の、栄養満点の鍋だ。  
しゅん しゅんぎく ぐざい えいようまんてん なべ
- 1738: ペヴェナージさん、座興だとしても、それはやり過ぎだぜ。  
ペヴェナージさん ざきょう す
- 1739: おお、水面に宿す月影の水墨画を、フェリーニョは見事に描くね。  
みなも やど つきかげ すいぼく みごと えが
- 1740: 校閲者は十円でよくやってくれたよと、夜空を見て微笑んだ。  
こうえつしゃ じゅうえん よぞら み ほほえ
- 1741: ヨルダンの料理人ヨシユアは、あらゆる添加物を使わぬ主義だ。  
りょうりにん てんかぶつ つか しゅぎ
- 1742: ピアチェンツアは、侮蔑的な誹謗には毅然と返報する。  
ぶべつてき ひぼう きぜん へんぼう
- 1743: ゲオルグの仇を討つため、姉をギュウエルジン島へ呼ぶ。  
あだ う あね とう よ
- 1744: 「グオ」を含む接続詞は、日本語には存在しない。  
ふく せつぞくし にほんご ぞんざい
- 1745: 三つ巴をビエリーイエフが制したが、ポタポタ流血してたな。  
み どもえ せい りゅうけつ
- 1746: ギリエルモは、腕力に任せてボロボロのボートを漕ぐ。  
わんりよく まか こ

- 1747: ペルセウス殿が日射病なので、喉を湿す水が欲しいのじゃ。  
どの につしやびよう のど しめ みず ほ
- 1748: 風が弱まったので、ユーフェはパイプを取り外した。  
かぜ よわ と はず
- 1749: 涼しい場所を求め、エステীবは占冠へ旅立った。  
すず ばしょ もと しむかつぶ たびだ
- 1750: 胸部圧迫骨折で、グアという呻き声すら出てこぬ。  
きょうふあつぱくこっせつ うめ ごえ で
- 1751: アクウシラオスは純情だから、プレゼントに花束を贈ろう。  
じゅんじよう はなたば おく
- 1752: ポレヴォイは、ジェナツツアノに数多の益虫が棲むことを発表した。  
あまた えきちゆう す はつびよう
- 1753: 御膝下でヒヨヒヨと笑い、齷齪働く人を小馬鹿にしてるな。  
おひざもと わら あくせくはたら ひと こばか
- 1754: フイレステーキに生醬油を垂らすと、至福の味だぜ。  
きじようゆ た しふく あじ
- 1755: ベビーピンクで余所行きの服を、白檀と共にエマへ委ねる。  
よそゆ ふく びやくだん とも ゆだ
- 1756: ジェノヴァには、親の仇がいるとギュヴェンは言い、自嘲気味に笑った。  
おや かたき い じちようぎみ わら
- 1757: ギュファンをコチヨコチヨ擦ったが、別に誇ることはないよ。  
くすぐ べつ ほこ
- 1758: ピューラーの老舗で、俗な一品が続々と入荷してきた。  
しにせ ぞく いっぴん ぞくぞく にゅうか
- 1759: テュスフィヨールを駆け抜けたけど、目的地はどこだ。  
かぬ もくてきち
- 1760: 手抜きを改め、キュキュつとなるまで食器を磨くように。  
てぬ あらた しよつき みか
- 1761: 自らの可能性を狭めるジョプリンを、ピロヴァノが励ます。  
みずか かのうせい せば はげ
- 1762: シュヴェーズイヒの秘書なら、問屋の窓口を知ってるはずだよ。  
ひしょ とんや まじぐち し
- 1763: ジェラートのブームを続けるため、タルトウフオも発売しよう。  
つづ はっぱい
- 1764: 儂は世俗には疎く、ヒュヴァリネンなどは知らぬよ。  
わし せぞく うと し
- 1765: 不調時には、雑炊と湯たんぽで体を温めて寝よう。  
ふちようじ ぞうすい ゆ からだ あたた ね
- 1766: ポリエステルとシルクが混ざり、エデュークには区別できない。  
ま くべつ
- 1767: ピニャータを製作し衰弱したが、粥とパイナップルで回復した。  
せいさく すいじやく かゆ かいふく



- 1768: 小児科から、ビエーンやピエーンに加え、テヨーンと変な泣き声をするな。  
しょうにか　くわ　へん　な　ごえ
- 1769: 偏屈なウィッチは、井然としていないものを、躊躇せず攻撃する。  
へんくつ　せいぜん　ちゆうちょ　こうげき
- 1770: 鉄砲の弾がデエイズに当たり、ボシヤールは激怒した。  
てっぽう　たま　あ　げきど
- 1771: チャパクアで、博打に負けた不足を、曲芸で賄った。  
ばくち　ま　ふそく　きよくげい　まかな
- 1772: ナウなヤングにバカウケという風潮作りは、ビオルヴィカの戦術なの。  
ふうちようづく　せんじゆつ
- 1773: ヒェルトウルは、ホンジュラスへの留学を強く志望している。  
りゆうがく　つよ　しばう
- 1774: 逆風に負けず勝ち取った宝箱が、空っぽで惘然とした。  
ぎやくふう　ま　か　と　たからばこ　から　ぶぜん
- 1775: あー、ペルフエツチに督促のニュアンスは、伝わって無いね。  
とくそく　つた　な
- 1776: 現金四百四十四円で、ウォツカを選んだ。  
げんきんよんひゃくよんじゅうよえん　えら
- 1777: 顔の産毛を気にするピヤタコフは、脱毛しようか迷う。  
かお　うぶげ　き　だつもう　まよ
- 1778: 秩序を唾棄すれば無秩序に潰されると、トウファに教わったよね？  
ちつじよ　だき　むちつじよ　つぶ　おそ
- 1779: ありやりや、キュヴェは少しだけ温めて飲むのが、醍醐味だぞ。  
すこ　あた　の　だいごみ
- 1780: プールの後は、茶室で煎茶でも飲んで休み給え。  
あと　ちやしつ　せんちゃ　の　やす　たま
- 1781: プツオンツイの旅には行っただけど、外側から眺めただけだよ。  
たび　い　そとがわ　なが
- 1782: グイーデイは運輸局に勤めてから、リャプノフと知り合った。  
うんゆきよく　つと　し　あ
- 1783: 緑青を、錆だと知らぬシエンキエヴィチが、何気なく舐めたって？  
ろくしよう　さび　し　なにげ　な
- 1784: 一票は一票の規則だから、三票にやできないって。  
いっぴよう　いっぴよう　きそく　さんびよう
- 1785: チェザレにとって、服飾雑貨のショッピングは、趣味なんだろう？  
ふくしよくざつ　しゆみ
- 1786: 緩いテンポのポップミュージックを聴きながら、グウを拝む。  
ゆる　き　おが
- 1787: 必修のレポートは、デヨレトバグをターゲットにしてみるよ。  
ひつしゆ　おんびん　す
- 1788: 穏便に済ませるつもりだったが、ドウムバーゼは不服であるようだ。  
おんびん　ふふく

- 1789: スイトジェフティは、ボロボロの生活に苦しめられている。  
せいかつ　くる
- 1790: グェルフィは、路上でペンネパスタの屋台を、悠々と引く。  
ろじょう　やたい　ゆうゆう　ひ
- 1791: 伯父がウエロニカにへしこを食わせ、これが抜群に旨かったらしい。  
おじ　く　ばっぐん　うま
- 1792: 窓ガラスにぶよぶよとした、得体のしれない物体が張り付いた。  
まじ　えたい　ぶつたい　は　つ
- 1793: クインマンサを撃墜できるのであれば、子供か否かは問わぬ。  
げきつい　こども　いな　と
- 1794: おっと、ブルゴーニュワインに添えるチーズが、焦げてしまった。  
そ　こ
- 1795: クエイクの一人称が朕だなんて、明らかに変だろ。  
いちにんしょう　ちん　あき　へん
- 1796: 外科のヴァシャゼは、密かにゼフュロスを吹き、憂さ晴らしする。  
げか　ひそ　ふ　う　ば
- 1797: ノーショーピングで、樹木が茂るゾーンに風情を感じる。  
じゅもく　しげ　ふぜい　かん
- 1798: パサマクオデイ部族に手紙を書くなら、アルファベット文字で平気だよ。  
ぶぞく　てがみ　か　もじ　へいき
- 1799: ツェロフハドは、溶けたピーチアイスを床に落としてしまった。  
と　ゆか　お
- 1800: ミエチスワフは鉛筆集めが好きとの俗説は、後に覆る。  
えんぴつあつ　す　ぞくせつ　のち　くつがえ　のち　くつがえ　覆る。